

# 企業が 大学・研究機関として 歴史資料を未来へ伝えるために 何ができるのか

資料を残す・未来に伝える

— Library・Museum・Archivesをつなぐ —

東京大学経済学部資料室は、資料保存を中心に、大学・研究機関として Library・Museum・Archivesをつなぐための活動に取り組んできました。そして、2023年には、前身となる商業資料文庫の開設から110年を迎えました。ここに記念のシンポジウムを開催し、経済学部資料室長および室員から、大学・研究機関として、企業史料を未来に残すために、現時点で私どもが考え、取り組んでいることをお伝えしたいと考えています。ぜひご参加いただき、私どもの今後の活動のために、皆さまからのご意見をお聞かせいただけますと幸いです。



2024

2.1 木

13:30~17:00  
(13:00開場)

参加無料(要申込)

東京大学大学院経済学研究科学術交流棟(小島ホール)  
2階 コンファレンスルーム(東京都文京区本郷7-3-1)

ハイブリッド開催(定員:対面50名 オンライン200名)

参加無料(事前申込制) ※コロナ感染拡大などの状況により  
完全オンライン開催となる可能性があります。

講演1 東京大学経済学部資料室の未来計画青写真 小島浩之(資料室・講師)

講演2 学術機関における企業史料の捉えかた 矢野正隆(資料室・助教)

講演3 東京大学経済学部資料室におけるアーカイブズ教育への取り組み  
森脇優紀(資料室・特任助教)

シンポジウム 司会:石原俊時 パネリスト:小島浩之、矢野正隆、森脇優紀

総括 石原俊時(経済学図書館長・資料室長)

総司会 富善一敏(資料室・学術専門職員)

主催:東京大学経済学図書館/企業史料協議会

後援:(一社)赤門アーカイブ倶楽部



お申し込みはこちらから

[https://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/?page\\_id=14765](https://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/?page_id=14765)

